

タイトル	小学生 1,500 人を招待して「こころの劇場」を開催 劇団四季ミュージカル 『ガンバの大冒険』
実施日時	平成 29 年 6 月 5 日(月) 10 時～、13 時 30 分～
場所	沼津市民文化センター 大ホール 沼津市御幸町 15 番 1 号 TEL 055-932-6111
担当	教育委員会 文化振興課 直通 055-934-4812 内線 2792
問合せ先	(公財)沼津市振興公社 沼津市民文化センター TEL 055-932-6111

1 内容

子どもたちの心に、生命の大切さ、人を思いやる心、信じあう喜びなど、人が生きていく上で最も大切なものを、舞台を通して語りかけたい。劇団四季が、日本全国の子どもたちに演劇の感動を届けるプロジェクト、それが「こころの劇場」です。

平成 21 年度から沼津市でも開催され、今年で 9 回目の公演となります。今回は、沼津市内の小学 6 年生を中心に招待して公演を行います。

- (1) 公演名 平成 29 年度 こころの劇場 劇団四季ミュージカル
『ガンバの大冒険』
- (2) 日時 平成 29 年 6 月 5 日(月) 2 回公演
[午前の部] 開場 9:30 開演 10:00
[午後の部] 開場 13:00 開演 13:30
- (3) 場所 市民文化センター 大ホール
- (4) 対象 沼津市内の小学 6 年生を招待(約 1,500 名)
- (5) 主催 四季株式会社
- (6) 共催 沼津市教育委員会、(公財)沼津市振興公社

2 特徴

今年度の演目であるミュージカル『ガンバの大冒険』は、齋藤惇夫さんの原作をミュージカル化し、1976 年に日生名作劇場として初演して以来、全国で 800 回以上の上演が重ねられている作品です。

運命に立ち向かおうとするガンバと仲間たちの姿は、私たちに「勇敢な心」や「仲間の大切さ」を教え、また「生命の尊さ」を深く問いかけます。

《ストーリー》

ガンバは町でのどかな暮らしを楽しむ町ネズミですが、彼の心の中には「何か大きな広いもの」へのあこがれが、気づくともなく湧きだしています。そんな時、知り合った島ネズミの忠太から聞いたのは、故郷の「夢見が島」がおそろしいイタチに襲われてネズミたちの命が危ない、ということ。しかし、町ネズミや船乗りネズミたちは死んでしまう危険を前に、助けに行くことに二の足を踏んでいます。「死ぬことをおそれては何もできない。仲間を助けに俺は行くぞ！」勇敢なガンバの言葉を聞き、島へと向かうことになったのは 10 人の仲間たち。そのリーダーとなったガンバは、未知なる海へ、冒険の旅へ、船を漕ぎ出すのですが…。

ガンバの大冒険

原 作：斎藤惇夫
「冒険者たち ガンバと15ひきの仲間」(岩波書店刊)
脚 色：劇団四季文芸部
作 曲：いずみたく
作 詞：山川啓介、梶賀千鶴子
振 付：山田卓
照 明：沢田祐二
初演オリジナル構成・演出：浅利慶太

全国公演 2017年4月 開幕！

劇団四季

このリリースに関するお問い合わせは
劇団四季 全国営業部まで
045-903-4659

ファミリーミュージカル『ガンバの大冒険』 全国ツアー公演決定！

このたび劇団四季では、ファミリーミュージカル『ガンバの大冒険』の全国公演をスタートさせます。ツアー中、一部の公演では児童招待公演“こころの劇場”として実施いたします。

劇団四季のファミリーミュージカルの歴史は1964年、『はだかの王様』（台本/寺山修司、演出/浅利慶太）の製作より始まりました。以来半世紀、「生命の尊重」、「愛と勇気の崇高さ」、「友情と連帯の重要さ」など、人生を生きるために必要な精神や道徳を、メッセージに織り込んだ作品レパートリーは、計30作以上。子供たちの情操教育という見地から、大変有効なものとして高い評価を得ています。

そして現在、これら四季ファミリーミュージカルの上演の中心的存在となっているのが、大型児童招待事業“こころの劇場”です。劇団四季と多くの企業、行政のご協力を得て行われるこの活動では、2008年度の開始来、北は北海道・利尻島から南は沖縄県・石垣島/宮古島まで、年間通じた全国巡演を敢行。2015年度は全国166都市でのべ56万人の児童が、四季のファミリーレパートリーを観劇しました。今年度も昨年と同規模の事業展開を見込んでいます。

今回上演する『ガンバの大冒険』は、ネズミのガンバが傷ついた仲間を救うべく、極悪非道のイタチに挑むという物語です。1976年に日生名作劇場として初演。以来、全国各地で800回以上の上演が重ねられ、再演の度に高い評価を得てきました。

未来に生きる子供たちに、舞台の感動を一ファミリーミュージカル『ガンバの大冒険』にご期待ください。



劇団四季のファミリーミュージカル

劇団四季のファミリーミュージカルには 30 を超えるレパートリーがあり、全国各地で毎年公演が行われています。

いずれの作品も完成度は高く、一般向けの作品と比べても引けをとりません。面白くなければ直ちに騒ぎ出し席を離れてしまう、大人以上に厳しい“子供”という観客を相手に育まれてきたからです。台本、演出、音楽、美術…、全てに妥協は許されません。

今や“海外ミュージカル”だけではなく、『ミュージカル李香蘭』、『夢から醒めた夢』、『ユタと不思議な仲間たち』等の“オリジナルミュージカル”ジャンルにおいても、高い評価を得るようになった劇団四季。そこに裏打ちされる高い創作能力と技術力は、約 50 年という長きに亘る“ファミリーミュージカル”から培われたといえるでしょう。

ファミリーミュージカルで謳われているテーマは、“生きる上で大切なこと” — “勇気” “愛” “友情” “生命の尊重” です。様々な社会問題がはびこり、子供たちが生きる指針を見失いがちな昨今、ミュージカルを通して様々なことを感じ学ぶことは、情操教育の見地からいっても有用なことでしょう。そして、大人たちにとっても、「忘れていた何か」を取り戻す機会となるかもしれません。

“ファミリーミュージカル”は劇団四季ミュージカルの原点。これまでも、そしてこれからも、四季レパートリーの大きな柱の一つであるといえるでしょう。

主な劇団四季ファミリーミュージカル（初演年）

『はだかの王様』（1964 年）	『王様の耳はロバの耳』（1965 年）
『王子とこじき』（1967 年）	『ふたりのロッセ』（1971 年）
『桃次郎の冒険』（1973 年）	『ジョン万次郎の夢』（1974 年）
『ガンバの大冒険』（1976 年）	『人間になりたがった猫』（1979 年）
『むかしむかしゾウがきた』（1980 年）	『嵐の中の子どもたち』（1981 年）
『魔法をすてたマジョリン』（1982 年）	『エルコスの祈り』（1984 年）

※タイトル呼称は、2017 年時点のもの。これまでに計 34 演目を上演。

作曲家・いずみたく と 劇団四季

いずみたく氏は、生涯で15,000曲以上の楽曲を生みだした、日本を代表する作曲家です。そのジャンルは幅広く、歌謡曲からフォークソング、CM、童謡、校歌と多岐に亘ります。

10代の頃より、浅利慶太と交流があったいずみ氏。すでにCMソングなどのヒットメーカーとして活躍していたいずみ氏が四季作品で初めて作曲を手掛けたのは、1964年、『はだかの王様』でのことでした。前述の通り、この作品は劇団四季が子ども達のために上演した初めてのミュージカル。以降『王様の耳はロバの耳』『雪ん子』『王子とこじき』など、子どものためのミュージカル作品計17作の作曲を担当しました。

“音楽も酒も女性も愛した人で、その生き方は奔放だった”といずみ氏を語る浅利氏。音楽が繋いだ二人の絆は、いずみ氏亡き今も、作品を通して繋がっています。

いずみたく (本名：今泉 隆雄)



1930年1月20日 東京・谷中生まれ
1946年 鎌倉アカデミア演劇科入学
1950年 舞台芸術学院演劇科卒業。芥川也寸志に師事し作曲活動を開始
1955年 朝日放送ホームソングコンクール・グランプリ受賞
1963年 「いいじゃないの幸せならば」が第11回日本レコード大賞各賞受賞
1989年 参議院議員に繰上当選
1992年5月11日 死去

【主な楽曲】

『見上げてごらん夜の星を』(1963年/作詞：永六輔 唄：坂本九)
『ゲゲゲの鬼太郎』(1968年/作詞：水木しげる 唄：熊倉一雄)
『ねがい』 TBS「江戸を斬る」主題歌(1976年/作詞：山上路夫 唄：西郷輝彦)
『手のひらを太陽に』NHK「みんなのうた」(1962年/作詞：やなせたかし)
『いい湯だな』ザ・ドリフターズ盤(1968年/作詞：永六輔)

【CMソング】

『文化放送JOQR』(1961年)
『チョコレートは明治』(1967年)

【四季での主な作品(初演年)】

『はだかの王様』(1964年) / 『王様の耳はロバの耳』(1965年)
『王子とこじき』(1967年) / 『ふたりのロッセ』(1971年)
『桃次郎の冒険』(1973年) / 『ジョン万次郎の冒険』(1973年)
『雪ん子』(1975年) / 『冒険者たち・ガンバとその仲間』(1976年)

ストーリー

主人公はネズミのガンバ。身体は小さいけれど頑張り屋です。ガンバはのどかな町にある家の、床下の貯蔵穴に住んでいます。幸せに暮らすガンバですが、いつも「何か大きな広いもの」へのあこがれが、気づくともなく湧きだしています。

ある日、ネズミたちのパーティーにでかけていたガンバたちの元に、傷ついたネズミが担ぎ込まれてきました。

彼は“夢見が島”に住む忠太と名乗り、悪逆非道のイタチのノロイ一族に島を荒らし回られ、家族や仲間たちがひどい目に合っていることを訴えました。そのイタチたちは、奇妙な踊りで催眠術をかけてネズミたちを捕えるといいます。

しかし、忠太に同情はしたものの二の足を踏む町ネズミや船乗りネズミの仲間たち。「死ぬことをおそれては何もできない。仲間を助けにぼくは行くぞ！」勇ましいガンバの言葉を聞き、島へと向かうことになったのは10人の仲間たち。そのリーダーとなったガンバは、未知なる海へ、冒険の旅へ、船を漕ぎ出すのですが・・・。

生まれて初めての冒険、広い海、恐ろしいイタチたち。
ガンバたちの冒険は、無事に成功するのでしょうかー。

原作者・斎藤惇夫

1940年6月20日新潟生まれ。立教大学法学部卒。

1970年、処女作『グリックの冒険』で日本児童文学者協会新人賞を受賞。

1972年、『冒険者たちーガンバと15ひきの仲間』で国際児童年特別アンデルセン賞優良作品賞、1983年の続編『ガンバとカワウソの冒険』で野間児童文芸賞を受賞。上記3作品『冒険者たち』シリーズはロングセラーとなり、アニメ化もされた。近年では、2015年に3DCGアニメ映画『GAMBA ガンバと仲間たち』が公開。

上演記録

ニッセイ名作(5都市)	1976年6月9日～10月26日	88回
文化庁こども芸術劇場(21都市)	1979年8月3日～8月27日	22回
文化庁こども芸術劇場(20都市)	1980年8月4日～8月28日	20回
NHK夏休みこどもミュージカル	1980年8月15日	2回
文化庁こども芸術劇場(20都市)	1981年8月4日～8月26日	20回
ニッセイ名作(11都市)	1985年6月3日～10月24日	111回
日本生命親子劇場(22都市)	1985年7月25日～8月30日	26回
全国公演(29都市)	1986年7月25日～9月7日	38回
日産労連チャリティ(25都市)	1994年11月7日～12月21日	25回
全国公演(63都市)	1995年1月7日～3月31日	69回
ニッセイ名作(9都市)	1997年6月4日～7月23日	53回
全国公演(24都市)	1997年7月25日～8月30日	25回
全国公演 自転車振興会補助公演(57都市)	2003年1月7日～3月31日	57回
自由劇場	2012年3月20日～4月15日	31回
全国公演 ころの劇場(78都市) 日産労連チャリティ(22都市) 全国公演(42都市)	2012年4月21日～2013年3月21日	246回
四季劇場【秋】ころの劇場	2016年5月20日～7月15日	81回
自由劇場	2016年7月23日～8月21日	34回
全国公演 ころの劇場(19都市) 日産労連チャリティ(1都市) 全国公演(9都市)	2016年9月13日～12月13日	97回
合 計		1045回